



〈第四十九回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



現在、荒神様は蛭沼の薬師様や11区の公民館がある敷地内にあります。8月下旬には火祭りが荒神様の前で行われています

荒神様と蛭沼

蛭沼の薬師様の境内に祭られている荒神様は80年ほど前は薬師様の東、約200mのところにありました。荒神様は世間ではかまどの神様。また防火・農業の神様として信仰されています。この辺は低地でしたから、夏は湿気が多く、かまどの火を守るには苦労しました。

また冬には乾燥して山火事が起き、家々まで燃え尽きましたから、防火には大変気を遣いました。そこで蛭沼の住民は、安心して農事に励めるように、荒神様をお祭りしたのでしょう。

昔から、ここ蛭沼には人が住み着いていましたが昭和の初期まで戸数は増加せず、当時はわずかに29軒でした。今では区画が整理されて、かつての面影はありませんが、昔は蛭沼から東の前原辺りは家並みもなく山野続きでした。

今の邑楽中学校やシンボルタワー辺りはうっそうとした雑木林で、一度山林に踏み入れると出る道に迷うほどでした。今から80年ほど前に子ども前で、おじさんがこんな話をしてくれました。「荒神様の周りは低くて、小さな池がたくさんあった。この池にたくさん蛭がいたもんだ」と。

池や沼底には蛭がたくさんいたので、人々はいつのまにかこの辺りを蛭沼と呼び、それが地名になったという人もいます。

蛭沼では昔から荒神様を村の守り神様としてきました。今もなお人々に信仰されています。

水の涸れない蛇池

昔、石打村と藤川村境辺りに大きな沼がありました。この沼の水は日照りで辺りの井戸が干しあがって、からからになっても水のなくなることはなく、いつも青々水をたたえていました。

村人は古くからおそらく大きな蛇の住み家があるのだろうと噂して蛇池と呼んでいました。

この隣に正善寺山という寺があったといわれます。村人は、この正善寺山の井戸と近くのお大尽の井戸と石打の観音様の井戸、この三つの井戸は底が通じていて、その先は龍宮に通じているとも言っていました。

寺のあったところは今の邑楽町福祉センター寿荘の北、松本公園付近で、その北側に最近まで蛇池というところがあり、土地改良が行われる前までは昔の面影がありました。現在は住宅地や用水堀が通った水田になっています。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



梅雨空に咲く
(中央公園)



Photo 広報担当者

ひとりごと From editors

▶だんだんと夏の気配が強くなり、蚊取り線香やスイカなど、夏の風物詩を目にすることが多くなってきました。庁舎の2階ではバナナの木が実をつけ、すくすくと成長しています。▶一方で、まだまだ梅雨らしい日も続いています。子どものころは、休みの日に天気が悪いとがっかりしました。最近では家の中でゆっくりとした時間が過ごせるので、雨の日も割と好きになりました。▶今、ちまたでは「ねこあつめ」という携帯ゲームが流行しています。庭にエサを置いて猫を待つ、という非常にシンプルなゲームで、男女問わず人気だそうです。わが家の車庫にはエサはありませんが、たまに猫が雨宿りにくるようです。車の上に「屋根お借りしました」というメッセージが足跡とともによくあります。(栗原)

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。